

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気・機械科	コース		学年・年次	2年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
国語	言語文化	2	2	南口 隆			
教科書名	出版社	学習書	学習期間	通年			
新編 言語文化	東京書籍						
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	①⑧⑭⑥⑩⑯	面接時数	全実施時間数 84時間 標準面接時数 2時間		
定期試験	年間・ <small>学期</small> 1回	評定算出方法	試験成績80点・平常点20点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	80%						

指導目標

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
 【思考力、判断力、表現力等】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深める。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めつつ言葉がもつ価値への認識を深める。

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
5	4	とんかつ 各段落の内容および登場人物の心情を理解する	1	①	5月30日		
6	2	古文の基礎 歴史的仮名遣い・古語の意味・月の異名・古時刻・古方位等の知識を理解する	2	⑧	6月30日		
7	4	訓読の基本 故事「守株」 書き下し文・再読文字と格言の意味および「守株」故事の内容と意味の理解する	3	⑭	7月24日		
10	6	羅生門 小説のプロットおよび下人の置かれた状況と老婆の考え、小説のテーマを理解する	4	⑥	10月31日		
11	4	徒然草「奥山にねこまたといふものありて」 登場人物・猫またのうわさ・法師の顛末・本隨筆の面白味・教訓を理解する	5	⑩	11月28日		
12	4	論語「学ぶということ」 語句の意味・学問の本質・年齢の異称・本当の「知」とは何かを理解する	6	⑯	12月24日		

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気・機械科	コース		学年・年次	3年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
国語	国語表現	2	2	遠島 充			
教科書名	出版社	学習書	学習期間	↓			
新編 国語表現	大修館書店		半年				
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	①②③④⑬⑯	面接時数	全実施時間数 36時間 標準面接時数 2時間		
定期試験	年間・ <small>学期</small> 1回	評定算出方法	試験成績80点・平常点20点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	80%						

指導目標

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深める。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めつつ言葉がもつ価値への認識を深める。

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
5	2	言葉と表記・整った文を書く 誤った仮名遣いを訂正・正しい係り受け・常体から敬体への変換を練習することで、正しい表記や整った文に訂正するやり方を理解する	1	①	5月30日		
6	2	相手に応じた言葉遣い 正しい待遇表現・話し言葉から書き言葉への変換・ら抜き、さ入れ言葉等を理解する	2	②	6月30日		
6	2	わかりやすい文を書く 長文を短文にする・適切な句読点・二通りに解釈できる文を訂正することを通して「わかりやすい文」とは何かを理解する	3	③	7月24日		
7	2	文のつなぎ方 様々な接続表現を学び、意味が通るように文章を並べ替えることで適切な文のつなぎ方を理解する	4	④	10月31日		
7	2	通信文を書き分ける 頭語と結語・時候の挨拶・往復はがきの書き方・恩師への近況報告を書くことで、さまざまな通信文の書き方を理解する	5	⑬	11月28日		
9	2	相手や場面に応じた会話・敬語のまとめ 尊敬、謙譲、丁寧の識別・様々な待遇表現を学ぶことで待遇表現の基礎を理解する	6	⑯	12月24日		

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気・機械	コース		学年・年次	2年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
地歴公民	公共	1	2	鈴木巧、豊田裕樹			
教科書名	出版社	学習書	学習期間	↓			
公共	東京書籍	公共	通年				

レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	①⑥⑧⑪⑯⑰	面接時数	全実施時間数 35時間 標準面接時数 2時間
定期試験	年間・学期 2回	評定算出方法	試験成績70点・平常点30点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。		
定期試験の評価割合	70%				

指導目標	人間と社会の在り方についての見方、考え方を働きかせ、現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、国際社会に主体的・平和的に生きる力を養う。 ①知識・技能:選択、判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに關わる現代の諸問題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめている。 ②思考・判断・表現:現代の諸問題について、事実を基に概念などを活用して多面的、多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 ③主体的に学習に取り組む態度:国家及び社会の形成者として、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
------	---	--	--	--	--

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4~5月	6	現代社会に生きる青年 ・青年期と自己形成の課題 ・自己形成と社会への参画	1	①	5月27日	前期末	
5~6月	6	人権保障の意識と展開 ・人権保障の意義と展開 ・日本国憲法の基本原理①－日本国憲法と三つの原理 ・日本国憲法の基本原理②－基本的人権の保障	2	⑥	7月16日	前期末	
7~9月	6	国会・内閣のしくみと役割 ・国会の仕組みと役割 ・内閣の仕組みと役割	3	⑧	9月30日	前期末	
10~11月	6	私たちと経済 ・私たちと経済 ・現代の企業	4	⑪	11月11日	後期末	
11~1月	6	労働者の権利・現代の雇用・労働問題 ・働くということ ・多様な職業選択 ・労働者の権利 ・現代の雇用、労働問題	5	⑭	1月14日	後期末	
1~3月	5	グローバル化と今日の国際経済 国際経済の課題 ・グローバル化と今日の国際経済 ・国際経済の諸問題 ・SDGsの達成に向けて	6	⑯	2月17日	後期末	

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科		コース			学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数		標準単位数	担当者			
数学	数学 I	3.5		4	鈴木 巧			
教科書名		出版社	学習書	学習期間				
数学 I		東京書籍		通年				
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	数学 I 1-①～⑥ 数学 I 2-①～⑥	面接時数	全実施時間数 標準面接時数	時間 時間		
定期試験	年間・学期 4回	評定算出方法	定期試験(知識技能7割・思考判断表現3割) × 80% 小テスト・レポート課題(主体的学習に取り組む態度) × 20%					
定期試験の評価割合	80%							

指導目標

- 数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 - (2) 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。
 - (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

月	指導時数	単元・学習内容			レポート指導			試験範囲	備考
		単元	頁	備考	回数	選択番号	提出日		
4月	7	1章 数と式 1節 式の計算 1 展開 三元一次連立方程式	10~17 106	電気で使用					
5月	12	数 I - 1 ①整式・整式の加法・減法・乗法 4章 指数関数 1 指数の拡張 1節 式の計算 2 因数分解 2節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算 数 I - 1 ②因数分解・実数・根号を含む式の計算	(数 II) 162~164	数 II の単元 電気で使用	1	1-①	5月9日		
6月	15	3節 1次不等式 1 不等式と1次不等式 2 不等式の応用 数 I - 1 ③不等式の性質・1次不等式 数 I - 1 ④集合・命題と条件 3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 1 2次関数	38~43 44~46 SCで実施		3 4	1-③ 1-④	6月28日 6月20日	日専校未実施	
7月	10	2 2次関数の最大・最小 3 2次関数の決定 2節 2次方程式と2次不等式 1 2次関数のグラフとx軸の共有点 2 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数	94~99 102~105 108~112 113~116						
8月	5	3 2次不等式	118~125						
9月	7	数 I - 1 ⑤関数・2次関数・2次関数の最大・最小 数 I - 1 ⑥2次方程式・2次関数 4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 1 直角三角形と三角比	134~140		5 6	1-⑤ 1-⑥	9月30日 9月30日		

所属	日立工業専修学校	学科	総合科	コース				学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数		標準単位数		担当者			
数学		数学 I		3.5		4		鈴木 巧	
月	指導時数	単元・学習内容				レポート指導		試験範囲	備考
		単元		頁	備考	回数	選択番号		
10月	10	4章 図形と計量 2 三角比の相互関係 2節 三角比の拡張 1 三角比と座標 2 三角比の性質 数 I -2⑤データの整理・代表値・散らばり 数 I -2①鋭角の三角比				141~145			
						147~151			
						152~155			
							SCで実施	11	2-⑤
								7	2-①
11月	10	3節 三角形への応用 1 正弦定理・余弦定理・面積の公式 2 空間図形の計量 数 I -2⑥データ分散・標準偏差・相関				157~166			
						168~170			
							SCで実施	12	2-⑥
								11月20日	
12月	7	数 I -2②三角比の拡張 数 I -2③正弦定理・余弦定理 数 I -2④三角形の面積						8	2-②
								9	2-③
								10	2-④
1月 ～ 3月	17	【数学B】ベクトル				別途テキスト使用			
		3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ				120~123	数 II の単元		
						124~128	物理で使用		
						129~131			
						133~138			

《留意事項》

※網掛け 科技高レポート

スクーリング年4回

前期スクーリングテスト 数学 I 1-①②③④

※網掛け 他教科と連携の為、カリキュラム変更内容

後期スクーリングテスト 数学 I 1-⑤⑥ 2-①②③

数学 I -2 ④⑤⑥試験範囲に含まず

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科		コース		学年・年次	2年		
教科	科目	単位数		標準単位数	担当者				
数学	数学Ⅱ	2		3	鈴木 巧				
教科書名		出版社		学習書	学習期間				
数学Ⅱ		啓林館			通年				
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	数学Ⅱ 1-①~⑥ 数学Ⅱ 2-①~②	面接時数	全実施時間数 時間 標準面接時数 時間				
定期試験	年間・学期 4回	評定算出方法	定期試験(知識技能7割・思考判断表現3割) × 80% 小テスト・レポート課題(主体的学習に取り組む態度) × 20%						
定期試験の評価割合	80%								

指導目標

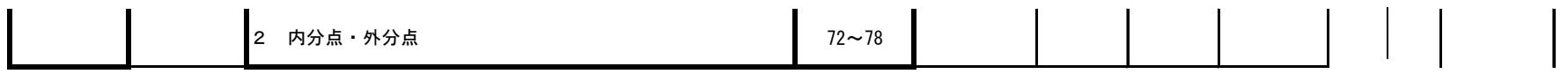
数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式、図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の图形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて图形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、图形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え方の論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

月	指導時数	単元・学習内容				レポート指導			試験範囲	備考
		単元	頁	備考	回数	選択番号	提出日			
4月	6	3章 三角関数								
		1節 三角関数								
		1 一般角と弧度法	120~123	1年時実施(復習)						
		2 三角関数	124~128							
5月	8	3 三角関数の性質	129~131	レポート内容の説明のみ						
		4 三角関数のグラフ	133~138							
		5 三角関数を含む方程式・不等式 (※不等式はSCで実施)	139~142							
		数Ⅱ－1 ⑤三角関数 (大問6, 7をSCで実施)	SC実施		5	1-⑤	5月21日			
6月	8	2節 加法定理								
		1 加法定理とその応用	145~150							
		2 三角関数の合成 (※P154ChallengeはSCで実施)	151~153							
		数Ⅱ－1 ⑥加法定理 (大問2, 5をSCで実施)	SC実施		6	1-⑥	6月18日			
7月	7	1章 方程式・式と証明								
		1節 多項式・分数式の計算								
		1 多項式の乗法と因数分解、二項定理	10~15							
		2 多項式の除法	17~22							
8月 ～ 9月	10	2節 2次方程式								
		1 複素数とその計算	24~28							
		2 解の公式	29~32							
		3 解と係数の関係	33~38							
		数Ⅱ－1 ①3次式・二項定理・虚数・解と係数の関係			1	1-①	8月26日			
		3節 高次方程式								
		1 因数定理と簡単な高次方程式	40~47							
		数Ⅱ－1 ②因数定理			2	1-②	9月30日			
		2章 図形と方程式								
		1節 点と直線								
		1 2点間の距離	70~71							



所属	日立工業専修学校	学科	コース					学年・年次	2年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者					
数学	数学Ⅱ	2	3	鈴木 巧					
月	指導時数	単元・学習内容				レポート指導		試験範囲	備考
		単元		頁	備考	回数	選択番号		
10月		2章 図形と方程式 1節 点と直線 3 直線の方程式 数Ⅱ－1 ③相加相乗平均【1章4節 式と証明はSCで対応 (P49～P60)】		79～86					
		2節 円 1 円の方程式		90～93					
				49～60	SC実施	3	1-③	10月23日	×
11月		2 円と直線(レポートの単元のみ) 3節 軌跡と領域 1 軌跡とその方程式(レポートの単元のみ) 2 不等式の表す領域(レポートの単元のみ)		94～96					
		数Ⅱ－1 ④点と直線 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数		103～105					
		1 指数の拡張 1 指数の拡張【累乗根～】		106～111					
		日専校				4	1-④	11月28日	
		12月		170～174					
		2 指数関数とそのグラフ 数Ⅱ－2 ①指数関数		日専校	12/23	7	2-①	12月23日	
1月		2節 対数関数 1 対数とその性質 2 対数関数とそのグラフ		177～182					
		183～188							
2月 ～ 3月		3 常用対数 数Ⅱ－2 ②対数関数 数Ⅱ－2 ③微分係数と導関数【レポート内容を説明】3年時再度履修		189～189					
		日専校		2/27	8	2-②	2月27日		
		日専校		2/27	9	2-③	2月27日		

《留意事項》

※網掛け	科技高レポート	スクーリング年3回	前期スクーリングテスト 数学Ⅱ 1-⑤⑥
※網掛け	他教科と連携の為、カリキュラム変更内容		後期スクーリングテスト 数学Ⅱ 1-①②④ 2-①
レポート数学Ⅱ 1-③, 2-②③は試験範囲に含まず			

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科		コース		学年・年	3年				
教科	科目	単位数		標準単位数	担当者						
数学	数学Ⅱ	1.5	1	鈴木 巧							
教科書名		出版社	学習書	学習期間							
数学Ⅱ		啓林館		前期(半年)							
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	数学Ⅱ 1-①～⑥ 数学Ⅱ 2-①～②		面接時数	全実施時間数	時間				
	報告課題集					標準面接時数	時間				
定期試験	年間・ 前期	1回	評定算出方法	定期試験(知識技能7割・思考判断表現3割) × 80% 小テスト・レポート課題(主体的学習に取り組む態度) × 20%							
定期試験の評価割合	80%										
指導目標											
数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようとする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の图形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて图形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、图形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。											
※ 科 技	新編 数学Ⅱ 326 啓林館	第5章 微分と積分	§1 指数と指數関数	項	授業進度		備考	試験範囲	備考		
				指數の拡張	頁	月日	時間				
				累乗根	P145～146		1.0	1.0			
				有理数の指數	P147～148	4月	1.5	2.5			
				指數関数	P149～150	(6h)	1.5	4.0			
				指數関数の性質	P151		1.0	5.0			
				指數を含む方程式・不等式	P152		1.0	6.0			
				§2 対数と対数関数	対数	P154～155		1.5	1.5		
前 期 707 啓林館	新編 数学Ⅱ 326 啓林館	第5章 微分と積分	§2 対数と対数関数	対数の性質	P156～158		1.5	3.0	電気で使用 対数不等式P164 は削除		
				対数関数	P159～160	5月	1.0	4.0			
				対数関数の性質	P161～162	(7h)	1.0	5.0			
				対数を含む方程式・不等式	P163		1.0	6.0			
				常用対数	P165		1.0	7.0			
				平均変化率と 微分係数	平均変化率	P164～165		0.5	7.5		
				導関数	微分係数	P166～167		0.5	8.0		
				接線の方程式	導関数の計算	P168～170	6月	1.0	9.0		
				接線の方程式	微分係数の計算	P171～172	(7h)	1.0	10.0		
				接線の方程式	接線の方程式	P173～174		1.0	12.0		
【総復習】 新編 数学Ⅰ 326 啓林館 + 新編 数学Ⅱ 326 啓林館 + 新編 数学B 324 啓林館 + プリント	新編 数学Ⅰ 326 啓林館 + 新編 数学Ⅱ 326 啓林館 + 新編 数学B 324 啓林館 + プリント	数Ⅰ 方程式と不等式	数Ⅰ 二次関数	関数の値の増加・減少	関数の値の増加・減少	P176～177		2.0	14.0	● 以降、総復 習のプリント 学習 ● 残りは夏休 みの宿題にし 休み明けの小 テストで チェック ● 前期末試験 は総復習範囲 を課し、卒業 試験とする	
				極大・極小	極大・極小	P178～181		2.0	16.0		
				最大・最小	最大・最小	P182～183	7月	1.0	17.0		
				方程式・不等式への応用	方程式の実数解の個数	P184	(5h)				
				第3節 積分	不定積分	P188～191		2.0	19.0		
				⑩導関数の応用			7月18日	日専校対応	数学Ⅱ-2④		
				⑪不定積分			7月18日	日専校対応	数学Ⅱ-2⑤		
				⑫定積分と面積			8月27日	SC実施	数学Ⅱ-2⑥		
				整式	整式の整理、整式の乗法						
				実数	整式の展開、因数分解						
数Ⅱ 图形と方程式	数Ⅱ 图形と方程式	数Ⅱ 三角関数	数Ⅱ 三角比	不等式	絶対値、平方根					7月～ 9月	
				2次方程式	不等式						
				2次関数のグラフ	2次方程式						
				2次関数と2次方程式	いろいろな形のグラフ						
				2次関数と2次不等式	式の変形、式の決定						
				三角比	最大最小とその応用						
				正弦定理と余弦定理	三角比と方程式その利用						
				図形の計量	鈍角の三角比						
				整式の除法と分数式	三角比の相互関係						
				複素数	三角比と方程式						
数Ⅱ 三角関数	数Ⅱ 三角関数	数Ⅱ 微分と積分	数Ⅱ ベクトル	因数定理	正弦定理と余弦定理						
				内分、外分	三角形の面積						
				2点間の距離	内分、外分						
				1次関数	2点間の距離						
				円と直線	直線の平行、垂直						
				弧度法、三角関数	円の方程式、円と直線との共有点						
				加法定理	弧度法、三角関数						
				指数関数	加法定理						
				対数関数	三角関数の合成						
				微分	指数の計算						
数B ベクトル	数B ベクトル			積分	指数関数と方程式、不等式						
				ベクトル	対数の計算						
				成分、内積となす角	対数関数と方程式、不等式						

※科技高スクリーニングテスト範囲前 レポート①② ※③は実施しない

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気、機械	コース		学年・年次	1年	
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者				
理科	化学			杉山 浩				
教科書名		出版社	学習書	学習期間	通年			
化学基礎、物理基礎		啓林館						
レポートの種類	一般レポート	選択レポート		面接時数	全実施時間数	時間		
	報告課題集				標準面接時数	時間		
定期試験	(年間)・学期 4回	評定算出方法	観点別評価で、①「知識・技能」と②「思考・判断・表現」は試験成績90点、 ③「主体的に取り組む態度」は試験勉強用提出物10点を満点とした総合成績にもとづき、評価基準で定める得点区分に従って算出する。					
定期試験の評価割合								

指導目標

日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って化学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	2	【化学基礎】				前期	
		第1部 物質の構成					
		第1章 物質の構成					
5	2	第1節 純物質と混合物				中間試験	
		第2節 物質とその成分					
6	2	第3節 粒子の熱運動と物質の三態				後期	
		第2章 物質の構成粒子					
		第1節 原子の構造と原子配置					
7, 8	1	第2節 イオン				試験	
9	3	第3節 元素の周期表				期末	
		第3章 化学結合					
		第1節 イオン結合					
10	4	第2節 共有結合				中期試験	
11	2	第3節 金属結合				後期	
		第2部 物質の変化					
		第1章 物質量と化学反応式					
12	3	第1節 原子量・分子量・式量				中期	
		第2節 物質量(mol)					
1	4	第3節 化学反応式と化学変化の量的関係				試験	
		第2章 酸と塩基					
		第1節 酸と塩基					
2	4	第2節 水の電離とpH				後期	
		第3節 酸・塩基の中和と塩					
11	2	第3章 酸化還元反応				試験	
		第1節 酸化と還元					
		復習					
12	3	【物理基礎】				後期	
		第1部 物体の運動とエネルギー					
		第1章 物体の運動					
1	2	第1節 速度				期末	
		第2節 加速度					
		第3節 落体の運動					
2	2	第2章 力と運動				試験	
		第1節 力					
		第2節 運動の法則					

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気、機械	コース				学年・年次	2年								
教 科	科 目	単位数		標準単位数		担当者											
理科	物理					細金 敦											
教科書名		出版社		学習書		学習期間											
物理基礎、物理		啓林館		通年													
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート				面接時数	全実施時間数 標準面接時数	時間 時間									
定期試験	年間 学期 4回	評定算出方法		試験成績70点・主体的学習態度30点を満点とした総合成績にもとづき、評価基準で定める得点区分に従って算出する。													
定期試験の評価割合	70%																
指導目標																	
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動とエネルギーへの関心を高め、物理学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基礎的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。																	
月	指導時数	単元・学習内容			レポート指導			試験範囲	備考								
					回数	選択番号	提出日										
4	5	【物理基礎】 第1部 物体の運動とエネルギー 第2章 力と運動 第1節 力 第2節 運動の法則						前期中間試験									
5	4	第3節 様々な力と運動															
6	5	第3章 仕事とエネルギー 第1節 仕事 第2節 運動とエネルギー						前期末試験									
7	5	第3節 位置エネルギー 第4節 力学的エネルギーの保存															
8	2	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 第1節 熱と温度						後期中間試験									
9	3	第2節 熱量															
10	6	第3部 波 第3節 热と仕事の交換 第1章 波の性質 第1節 波の伝わり方						後期末試験									
11	5	第2節 波の性質 第2章 音 第1節 音波の性質															
12	3	第2節 音波の振動						後期末試験									
1	5	【物理】 第1部 様々な運動 第1章 物体の運動 第1節 平面内の運動															
2	3	第2節 落体の運動															
3	2	第2章 剛体のつり合い 第1節 剛体のつり合い															

(継続用紙)

所属	○○○○○○学校	学科	○○科	コース	○○○○○○○○○○コース	学年・年次	○年	
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者				
公民	公共	2	2	○○ ○○				
月	指導時数	単元・学習内容			レポート指導		試験範囲	備考
					回数	選択番号		

《留意事項》

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気、機械	コース		学年・年次
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者		
理科	物理			杉山 浩		
教科書名		出版社	学習書	学習期間	前期半年	
物理		啓林館				
レポートの種類	一般レポート	選択レポート		面接時数	全実施時間数 時間	
	報告課題集				標準面接時数 時間	
定期試験	年間・ <u>学期</u> 2回	評定算出方法	観点別評価で、①「知識・技能」と②「思考・判断・表現」は試験成績、「主体的に取り組む態度」は試験勉強用提出物10点を満点としたもとづき、評価基準で定める得点区分に従って算出する。			
定期試験の評価割合						

指導目標

物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理理解を深め、科学的な自然観を育成する。

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲
			回数	選択番号	提出日	
4	1 3	【物理】 第1部 様々な運動 第1章 物体の運動 第1節 平面内の運動 第2節 落体の運動				前 期 中 間 試
		第2章 剛体のつり合い 第1節 剛体のつり合い				
		第3章 運動量と力積 第1節 運動量の保存 第2節 衝突と力学的エネルギー				
5	2 3 2	第4章 円運動と单振動 第1節 円運動 第2節 慣性力 第3節 单振動				試 験
		第3部 波 第1章 波の性質 第2節 波の伝わり方				
		第2章 音 第1節 音の性質 第2節 ドップラー効果				
		第3章 光 第1節 光の性質				
9	3					

《留意事項》

2025年度 年間教育計画

所属	日専校	学科		コース		学年・年次	全学年共通
教 科	科 目	単位数		標準単位数	担当者		
保健体育	体育	2		2	高橋・飯塚		
教科書名		出版社		学習書	学習期間	通年	

レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①~⑦	面接時数	
	報告課題集				
定期試験	年間・学期 ○回	評定算出方法	実技点、態度、見学、主体的な取り組みを総合的に判断。		
定期試験の評価割合					

指導目標

【体育の目的】

生涯を通して健康な生活を実践するための基盤を作る。心身共に健全な人間を育成と、社会的態度の向上をはぐくむ

【目標】

新体力テスト、全員B級を目指す授業・体育行事の安全実施。事故0を目指す

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	8	集団行動(規律訓練) サッカー(基本技術リフティング、パス)	2	①② ④⑤ ⑦	9月1日		
5	8	サッカー(ゲーム形式) ソフトボール(キャッチボール、トスバッティング)					
6	8	ソフトボール(ゲーム形式)					
7	8	パンポン(ゲーム形式)					
9	8	パンポン(ゲーム形式)					
10	8	バレー(基本技術 トス、レシーブ、円陣パス、サーブ)	1	③⑥	2月1日		
11	8	バレー(スパイク、ゲーム形式)					
12	8	持久走					
1	8	バドミントン(基本技術 ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ) ゲーム形式					
2	8	バスケットボール (ゲーム形式)					
3	6	クラスマッチ練習					

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気・機械科	コース		学年・年次	3年
教 科	科 目	単位数		標準単位数	担当者		
外国語	論理・表現 I	2		2	萩谷 嘉昭		
教科書名		出版社		学習書	学習期間		
CROWN Logic and Expression I		三省堂			半年		

レポートの種類	一般レポート	選択レポート	4,6,8,14,16,20	面接時数	全実施時間数 24時間
	報告課題集				標準面接時数 時間
定期試験	年間・学期 2回	評定算出方法	試験成績80点・平常点20点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。		
定期試験の評価割合	30%				

指導目標
生徒の国際感覚の醸成と意識の高揚を図ると共に、将来の実践英会話に備えた英語の基礎力を養成する

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	4	Lesson2 Breakfast Makes Perfect	1	4			
5	4	Lesson3 Cool Japan	2	6			
6	4	Lesson4 Save Our Planet	3	8	7月24日		
7	4	Lesson7 What Is Our Greatest Invention?	4	14			
8	4	Lesson8 Discover Japan	5	16			
9	4	Lesson10 Music Without a Pianist	6	20	9月2日		

2025年度 年間教育計画

所属	日立工業専修学校	学科	電気・機械科	コース		学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
外国語	英語コミュニケーション I	3	3	小室 尚子			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
AllAboard ! I		東京書籍		通年			
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	21~29	面接時数	全実施時間数 80時間 標準面接時数 時間		
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	試験成績80点・平常点20点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	30%						
指導目標	生徒の国際感覚の醸成と意識の高揚を図ると共に、将来の実践英会話に備えた英語の基礎力を養成する						

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	8	Lesson1 Breakfast around the World	1	21			
5	8	Lesson2 Australia's Cute Quokkas	2	22			
6	8	Lesson3 A Train Driver in Sanriku	3	23	5月30日		
7	8	Lesson4 A Miracle Mirror	4	24			
8	8	Lesson5 Learning from the Sea	5	25			
9	8	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	6	26	7月24日		
10	8	Lesson7 A Dairy of Hope	7	27			
11	8	Lesson8 A Door to a New Life	8	28			
12	8	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	9	29	9月19日		

2024年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	電気科		コース			学年・年次
科目名	ハードウェア技術	単位数		教科書	ハードウェア技術・電子計測制御	出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4		前期授業なし				
5		前期授業なし				
6		前期授業なし				
7		前期授業なし				
8		前期授業なし				
9		前期授業なし				
10		1. 電子計測制御の概要 ①計測誤差、各制御の説明。 (シーケンス制御、フィードバック制御、コンピュータ制御) ②GPSシステムの概要(衛星の数、位置特定に必要な衛星数)			12	
11		2. センサとアクチュエータ ①センサの種類 ②アクチュエータの種類			12	中間
12		3. フィードバック制御の基礎 ①シーケンス制御とフィードバック制御 ②フィードバック制御システムの構成要素 ③フィードバック制御システムの構成例			9	
1		4. フィードバック制御システムの種類 ①定値制御システム ②追従制御システム ③プログラム制御システム			12	
2		5. 信号の伝達と伝達関数 ①ブロック線図の構成要素 ②ブロックの接続と等価変換 ③フィードバック制御システムとブロック線図 6. フィードバック制御システムの応答と安定性			9	期末
3		7. 空気圧回路 8. ラダープログラム			6	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日専校					
学 科	電気科		コース			学年・年次
科目名	ハードウェア技術	単位数		教科書	ハードウェア技術	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数		
	ページ	項 目・内 容			h	試 験 備 考
4	21	1章 論理回路の基礎 2節 論理回路の基礎 1. 基本的な論理素子 2. その他の論理素子 3. 正論理・負論理			12	
5	34	1章 論理回路の基礎 4節 論理式の簡単化 1. ブール代数 2. カルノー図			9	
6	42	1章 論理回路の基礎 5節 論理式の設計 1. 論理回路の設計手順 2. エンコーダとデコーダ 3. マルチプレクサとデマルチプレクサ			12	中間
7	49	1章 論理回路の基礎 6節 演算回路 1. 加算器 2. 並列加算と直列加算			12	
8	55	1章 論理回路の基礎 7節 順序回路 1. フリップフロップ 2. レジスタ 3. カウンタ			12	
9						期末
10		後期授業なし				
11		後期授業なし				
12		後期授業なし				
1		後期授業なし				
2		後期授業なし				
3		後期授業なし				

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次 1年
科目名	機械工作		単位数	教科書	機械工作1	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			h	
4	P50～P52	機械材料 1節 材料の機械的性質 1. 機械材料に望まれる性質 2. おもな機械材料			3	
5	P 53～P61	1節 材料の機械的性質 3. 機械的性質とその試験法 1)強さ 2)硬さ 3)粘り強さ 4)疲れ強さ			3	
6	P 62～P71	2節 金属の結晶と加工性 1. 金属・合金の結晶と状態変化			4	前期 中間試験
7	P71～P77	2節 金属の結晶と加工性 2 金属材料の変形と結晶 3 金属材料の加工性			4	
8	=	-			-	
9	P12～P30	工業計測と測定用機器 1節 計測の基礎 2節 測 3節 長さの測定			4	前期末 試験
10	P31～P48	1節 三次元形状の測定 2節 表面性状の測定 3節 質量と力の測定 4節 温度の測定			4	
11	P78～P83	3節 鉄鋼材料 1. 鉄鋼の製法 2. 炭素鋼の性質と分類			4	後期中間 試験
12	P84～P87	1. 純鉄の変態と結晶構造 2. 炭素鋼の組織と熱処理 ・炭素鋼の組織			4	
1	P87～P93	1. 炭素鋼の組織と熱処理 ・炭素鋼の熱処理			3	
2	P94～P101	炭素鋼の種類と用途・加工性 合金鋼・特殊鋼			3	学年末 試験
3	P102～P107 P108～P121	鋳鉄・鋳鋼 非鉄金属材料 ・アルミニウムとその合金 ・マグネシウムとその合金 ・銅とその合金			3	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次
科目名	機械工作		単位数	教科書	機械工作2	出版社
						実教出版
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			h	
4	P 8～P 11	第6章 切削加工 1.切削加工の分類 1) 切削加工の概要 2) 切削加工と切削工具 3) 工作機械と切削工具の運動			3	
5	P 12～P 20	2.おもな工作機械と切削工具 1) 旋盤 2) フライス盤			3	
6	P 20～P 28	2.おもな工作機械と切削工具 3) ボール盤 4) 中ぐり盤 5) 形削り盤			4	前期 中間試験
7	P 28～P 36	2.おもな工作機械と切削工具 6) ブローチ盤 7) 歯切り盤 3.切削工具と切削条件 1) 切削工具材料の条件 2) 工具鋼工具 3) 硬質材料による工具			4	
8	=	—			—	
9	P 37～P 43	3.切削工具と切削条件 4) 切削速度と送り速度 5) 工具寿命と仕上げ面の粗さ			4	前期末 試験
10	P50～P52 P53～P59	5切削抵抗 5節 工作機械の構成と駆動装置			4	
11	P44～P50	4節 切削理論 1) りくずの形態 2) 切削による熱の発生 3) 構成刃先とびびり振動 4) 切削油剤			4	後期中間 試験
12	P62～P68	7章 研削加工 研削加工の分類・研削			4	
1	P69～P74	3節 研石車			3	
2	P75～P84	4節 いろいろな研削・研磨 5節 遊離砥粒による加工			3	学年末 試験
3	P86 P87～99 P100～P106	1節 特殊加工 2節 熱的な加工 3節 化学的な加工			3	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次 2年
科目名	機械工作		単位数	教科書	機械工作1・2	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数		
	ページ	項 目・内 容			h	試 験 備 考
4	P17～P20 P53～59 P140～147	機械工作2 フライス盤の特徴 工作機械の構成と駆動装置 鋼の表面硬化			3 3	
5	P196～234	機械工作1 塑性加工 圧延 プレス加工 曲げ加工と残留応力			8	
6	P84～93 P95～101	その他の塑性加工 機械工作1 炭素鋼の組織と熱処理 炭素鋼の材料記号と合金鋼の性質			8	前期中間試験
7	P102～107 P108～121 P142～161	機械工作1 機械材料 鋳鉄 非鉄金属 鋳造			6	
8		—			—	
9	P164～194	機械工作1 溶接 溶接と接合 ガス切断とその特徴 各種接合方法			7	前期末試験
10						
11						
12						
1						
2	P84～93 P95～101 P12～31	機械工作1 炭素鋼の組織と熱処理 炭素鋼の材料記号と合金鋼の性質 機械工作2 主な工作機械と切削工具				
3	P102～107 P108～121 P142～161	機械工作1 機械材料 鋳鉄 非鉄金属 鋳造				

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次
科目名	機械工作		単位数	教科書	機械工作2	出版社

月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	P62～P64 P69～P74	砥粒加工と特殊加工 砥粒加工 研削 砥石車		6		
5	P 63～P 68 P75～P84	各種の研削加工 1.円筒研削、2.平研削、3.内面研削、4.工具研削、5.ねじ研削 6.歯車研削、7.ホーニング、8.超仕上げ		8		
6	P86～P118	特殊加工と3次元造形技術 特殊加工 3次元造形技術		8	前期中間試験	
7	P173～185	品質管理と検査 品質管理システム 各種検査方法		6		
8	—	—		—		
9	P150～172	生産計画と管理 生産管理のあらまし 生産計画と管理 設備管理		7	前期末試験	
10						
11						
12						
1						
2						
3						

《留意事項》

2025年度 年間指導計画(連携科目等)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	機械科		コース			学年・年次	
科目名	機械加工科	単位数	5	教科書			
月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容					
4		安全教育 第1章 安全行動基準 (5S3T・RKY) 第2章 安全訓(安全昌和) 第3章 安全作業基準(旋盤・フライス・仕上げ) ・各種測定器の取扱い			15		
5		・各種測定器の取扱い(ノギス・マイクロメータ・スケール) ・各種道具類の取扱い(バイト・ヤスリ・バイス・スコヤ) ・旋盤・仕上げ作業点検の仕方 ・旋盤操作/ヤスリ加工基本動作			24		
6		・芯だし訓練(ダイヤルゲージ) '1点心出し '2点心出し '径・端面の心出し ・ヤスリ加工基本動作			33		
7		・芯だし訓練(ダイヤルゲージ) '1点心出し '2点心出し 350角ヤスリの取扱い			7		
8		・夏休み			7		
9		・基本要素部品旋盤加工No1(ストレート軸) 外形端面荒加工/外形端面中加工/外形端面仕上げ加工 ・平面度仕上げ加工 スコヤの有効活用 光明丹の活用/当たり出し			14		
10		・基本要素部品旋盤加工No1(ストレート軸) 外形端面荒加工/外形端面中加工/外形端面仕上げ加工 ・平面度仕上げ加工 加工時間計測 スコヤの有効活用 光明丹の活用/当たり出し			41		
11		・基本要素部品旋盤加工No2(五段軸) マイクロカラーの有効活用 ・平面度仕上げ加工 加工時間計測 スコヤの有効活用 光明丹の活用/当たり出し			33		
12		・基本要素部品旋盤加工No2(五段軸) マイクロカラーの有効活用 ドリル穴あけ加工/テーパ加工 ・平行度/寸法上げ加工			34		
1		・基本要素部品旋盤加工No2(五段軸) マイクロカラーの有効活用 ・平行度/寸法上げ加工			45		
2		・基本要素部品旋盤加工No2(五段軸) マイクロカラーの有効活用 ・平行度/寸法上げ加工			24		
3		・国家検定3級旋盤課題加工 ・平行度/寸法上げ加工 加工時間計測			24		



《留意事項》

2025年度 年間指導計画(連携科目等)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	機械科		コース			学年・年次	
科目名	機械加工科	単位数	5	教科書			
月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容					
4		・国家検定3級旋盤課題加工 ・フライス盤各種道工具の取扱い（正面フライス・エンドミル・ドリル） ・フライス盤操作練習（バイスの取扱い・刃物の取付方）			20		
5		・国家検定3級旋盤課題加工時間計測 ・フライス盤基本要素加工（溝・正面・側面・六面体加工）			24		
6		・国家検定3級旋盤課題加工時間計測 ・フライス盤基本要素加工（溝・正面・側面・六面体加工）			28		
7		・国家検定3級旋盤課題加工時間計測 ・フライス盤基本要素加工（溝・正面・側面・六面体加工）			24		
8		・夏休み			8		
9		・国家検定3級旋盤課題加工時間計測 ・国家検定3級フライス盤課題加工			28		
10		・国家検定3級旋盤課題加工時間計測 校内試験 ・国家検定3級フライス盤課題加工			36	10/上	
11		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定3級フライス盤課題加工			44		
12		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定3級フライス盤課題加工			24		
1		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定2級フライス盤課題要素加工（エンドミル溝加工・R加工）			36		
2		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定2級フライス盤課題要素加工（エンドミル溝加工・R加工）			29		
3		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定2級フライス盤課題要素加工（エンドミル溝加工・R加工）			18		



《留意事項》

2025年度 年間指導計画(連携科目等)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	機械科		コース			学年・年次 3年	
科目名	機械加工科	単位数	2	教科書			
月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容					
4		・国家検定2級旋盤課題要素加工（偏心・ネジ切・溝・テーパ加工） ・国家検定2級フライス盤課題要素加工（エンドミル溝加工・R加工）			30		
5		・国家検定2級旋盤課題加工時間計測 ・国家検定2級フライス盤課題加工時間計測			44		
6		・国家検定2級旋盤課題加工時間計測 ・国家検定2級フライス盤課題加工時間計測			44		
7		・国家検定2級旋盤課題加工時間計測 ・国家検定2級フライス盤課題加工時間計測 技能検定実技試験 技能照査実技試験			33	7/上	
8		・NC/MCプログラム基本学習（座標系・各種コード・切削条件） ・NC/MC機械操作練習（操作盤・チャック爪交換・バイト取付）			13		
9		・NC/MCプログラム基本学習（座標系・各種コード・切削条件） ・NC/MC機械操作練習（操作盤・チャック爪交換・バイト取付）			14		
10		工場実習					
11		工場実習					
12		工場実習					
1		工場実習					
2		工場実習					
3		工場実習					

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	総合科		コース			学年・年次 1学年
科目名	機械製図		単位数	機械製図、ワークノート		出版社 実教出版
月	指 導 内 容				指導時数	
	ページ	項 目・内 容			h	試 験 備 考
4	3 10 12 16	まえがき 機械製図と規格 製図用具とその使い方 図面に用いる文字と線		製図用道具の理解 製図道具配布 製図室清掃ルール 文字練習	2	入学式 GW
5	18 28	線 投影図のえがき方		文字練習 問題2(P.35)	4	GW
6	38	立体的な図示法		機械製図ワークノート(201,202) 問題3(P.36)	8	中間試験 (前期)
7	—			機械製図ワークノート(204,301,302) 練習ノート(301,302)	8	夏季休暇
8	—	宿題解答 機械実習課題図面			2	夏季休暇
9	45	展開図		六角柱 日専祭用課題	6	期末試験 (前期)
10	—	展開図		日専祭用課題	6	
11	— 52	展開図 製作図のあらまし		日専祭用課題 質量計算(P.61) 製図ワークノート(301,303,402,403)	12	日専祭
12	66	図形の表し方		機械製図ワークノート(401) ワークノート類似課題	9	中間試験 (後期)
1	70	図形の表し方		機械製図ワークノート(402,403,404)	9	年末休暇 年始休暇
2	76	図形の表し方		課題3(P.83)	9	期末試験 (後期)
3	83	寸法記入法		課題3(P.83)	6	終業式 春季休暇

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	電気科		コース			学年・年次 2学年
科目名	機械製図		単位数	機械製図、ワークノート		出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	96	寸法記入についての留意事項	課題3(P.83)	4		始業式 GW
5	103	公差・表面性状	製作図(ブロック)	6		GW
6	—	公差・表面性状	製作図(ブロック)	6	中間試験 (前期)	
7	116 123	幾何公差 普通公差		6		夏季休暇
8	125	表面性状		4		夏季休暇
9	—	製作図	日専祭用課題	6	期末試験 (前期)	
10	—	製作図	日専祭用課題	8		
11	—	製作図	日専祭用課題	4		日専祭
12	160	ねじ	製図検定課題 小テスト	4	中間試験 (後期)	年末休暇
1	193 202	軸受け 歯車	製図検定課題	8		年始休暇
2	— 232	歯車 溶接継手	製図検定課題 小テスト	4	期末試験 (後期)	
3	—	溶接継手	製図検定課題	2		終業式 春季休暇

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科・溶接科		コース			学年・年次 2学年
科目名	機械製図		単位数	機械製図、ワークノート		出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容		h		
4	96	寸法記入についての留意事項		課題3(P.83)	6	入学式 GW
5	103	公差・表面性状		製作図(ブロック)	6	GW
6	—	公差・表面性状		製作図(ブロック)	12	中間試験 (前期)
7	116 123	幾何公差 普通公差			9	夏季休暇
8	125	表面性状			3	夏季休暇
9	—	製作図		日専祭用課題	9	期末試験 (前期)
10	—	製作図		日専祭用課題	12	
11	—	製作図		日専祭用課題	12	日専祭
12	160	ねじ		製図検定課題 小テスト	3	中間試験 (後期) 年末休暇
1	193 202	軸受け 歯車		製図検定課題	12	年始休暇
2	— 232	歯車 溶接継手		製図検定課題 小テスト	9	期末試験 (後期)
3	—	溶接継手		製図検定課題	9	終業式 春季休暇

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次 2年
科目名	機械設計		単位数	教科書	機械設計1	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			h	
4	P 10～P 20 P 21～P 29	機械のなりたち 機械設計 機械に働く力 1. 力と合成と分解			9	
5	P 29～P 31 P 31～P 34 P 34～P 38 P 38～P 39	2. 力のモーメントと偶力 3. 力のつりあい 4. 重心 演習			9	
6	P 40～P 43 P 43～P 46	運動 1. 運動①直線運動 ②加速度 ③重力加速度 2. 回転運動 ①周速度と角速度 ②回転速度 ③向心力と遠心力・節末問題			12	前期中間試験
7	P 47～P 53	力と運動の法則 運動の法則 運動量と力積 節末問題			10	
8	—	—			—	
9	P 54～P 60	仕事と動力 1. 仕事 2. 道具や機械の仕事			10	前期末試験
10	P 60～P 65 P 66～P 70	エネルギーと動力・節末問題 摩擦と機械の効率 1. 摩擦 2. 機械の効率 3. 節末問題			8	
11	P 72～P 73 P 74～P 80	材料に加わる荷重 引張・圧縮荷重 応力とひずみ 応力—ひずみ線図			6	後期中間試験
12	P 80～P 82 P 83～P 84 P 85～P 86	縦弾性係数・節末問題 せん断応力・ひずみ 横弾性係数・節末問題			6	
1	P 87～P 89 P 90～P 100	熱応力 1. 熱応力 2. 線膨張係数・節末 材料の破壊 許容応力と安全率・節末問題			8	
2	P 101～P 103 P 104～P 106	はりの曲げ 1. はりの種類と荷重 2. はりのせん断力と曲げモーメント			8	工業基礎学力テスト
3	P 106～P 112 P 112～P 117 P 118～P 120	はりの曲げ 1. せん断力図と曲げモーメント図 2. 曲げ応力と断面係数 3. 断面の形状と寸法			6	学年末試験

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械		コース			学年・年次 3年
科目名	機械設計		単位数	教科書	機械設計1・2	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	P121～P127 P128～P133 P154～P161	機械設計1 6.はりのたわみ・節末問題 7.ねじり 軸のねじり ねじり応力と極断面係数・節末問題 1.ねじの用途と種類			9	
5	P162～P166 P159～P161 P167～P174	機械設計1 2.ねじに働く力と強さ 1.ねじと斜面・締め付ける力・緩める力 2.ねじを回すトルク・ねじの効率・節末問題 3.各種のねじ 1.ボルト・ナットの種類 1.ねじの強さとボルトの太さ 2.ねじのはめあい長さ 3.ねじの緩み止め 節末問題			12	
6	P30～P40	機械設計2 1.歯車の種類・回転運動の伝達・節末問題 2.平歯車の基礎 ・歯車各部の名称 ・歯の大きさ ・歯車の速度伝達比 ・歯形曲線			12	前期中間 試験
7	P40～P48	機械設計2 3.インボリュート歯形 4.歯のかみあい 5.標準平歯車と転位歯車 ・節末問題			9	
8	—	—			—	
9		総合演習			6	前期末 試験
10						
11						
12						
1						
2						
3						

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校				
学 科	機械科	コース	溶接コース	学年・年次	3年
科目名	機械設計	単位数	教科書	機械設計1	出版社

月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	71 72 72 74 74 74 80 82	第3章 材料の強さ 1節 材料に加わる荷重 1 加重 2節 引張・圧縮荷重 1 外力と材料 2 応力とひずみ 3 縦弾性係数 節末問題		1 2 1 1		前期中間試験範囲
5	83 83 83 84 85 96 87 87 88 89	3節 せん断荷重 1 せん断 2 せん断応力 3 せん断ひずみ 4 横弾性係数 節末問題 4節 温度変化による影響 1 熱応力 2 線膨張係数 節末問題		1 1 1 1 1		
6	90 90 95 96	5節 材料の破壊 1 破壊の原因 2 材料の機械的性質とおもな使い方 3 許容応力と安全率 節末問題		2 1 2 1		前期末試験範囲
7	21 22 22 22 23 29	第2章 機械に働く力と仕事 1節 機械に働く力 1 力 2 力の表し方 3 力の合成と分解 4 力のモーメントと偶力		1 2 1		
8	31	5 力のつり合い		2		
9	34 38	6 重心 節末問題		2 1		
10						
11						
12						
1						

2						
3						

《留意事項》

2025年度 年間教育計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	全科		コース			学年・年次
科目名	工業情報数理	単位数	2	教科書	工業情報数理	出版社
						実教数理
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			h	
4	1	1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会			5	
5	14	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理			6	
6	29	2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎			8	前期中間 6/9・10
7	43	3節 アプリケーションソフトウェア			6	
8	61	3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語			2	
9	65	2節 プログラムのつくり方 3節 流れ図とアルゴリズム			4	前期末 9/9・10・11
10	127	5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム			5	
11	139	3節 選択処理 4節 繰り返し処理			4	
12	153	5節 配列 6節 関数			3	
1	209	7節 Cによる数理処理			4	
2	177	6章 ハードウェア 1節 データの表し方			4	
3	187	2節 論理回路の基礎			2	

《留意事項》

2025年度 年間教育計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	全科		コース			学年・年次
科目名	工業情報数理	単位数	2	教科書	工業情報数理	出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	209	7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要			5	
5	223	2節 コンピュータネットワークの通信技術 8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要			6	
6		2節 制御プログラミング 3節 組込み技術			8	前期中間 6/9・10
7	235	9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション 3節 文書の電子化			6	
8	259	4節 問題の発見・解決 10章 数理処理 1節 単位と数理処理			2	
9		2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション			4	前期末 9/9・10・11
10						
11						
12						
1						
2						
3						

《留意事項》

10月から工場実習

2025年度 年間指導計画(連携科目等)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	機械科		コース	溶接		学年・年次 第3学年	
科目名	材料工学		単位数		教科書 材料工学&個別テキスト	出版社 実教出版	
月	指 导 内 容			指導時数 32h	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容					
4	154	4. 2 アルミニウムとその合金 PP アルミニウムの溶接 ①アルミニウムの性質と溶接性 ②アルミニウムの溶接施工法			4		
5	158 159	4. 4 チタンおよびその合金 PP チタンの溶接 4.2銅および銅合金 PP 銅の溶接			6		
6	141 ～ 151	第3節 鋳鉄 PP 鋳鉄の溶接 ①鋳鉄の性質と溶接性 ②鋳鉄溶接部の希釈の影響 ③鋳鉄の溶加材			9	前期中間	
7		加工材料総復習 PP 1. 材料知識の全体像 2. 材料の性質と機械的性質 3. 物理的性質と科学的性質			4		
8		4. 鉄鋼材料 5. 非鉄金属と非金属材料			2		
9		6. 熱処理 7. 材料選定の手順			7	学年末	
10		工場実習					
11		工場実習					
12		工場実習					
1		工場実習					
2		工場実習					
3		工場実習					

《留意事項》

2025年度 年間指導計画(連携科目等)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース	溶接		学年・年次
科目名	材料工学		単位数	教科書	材料工学&個別テキスト	出版社
月	指 導 内 容				指導時数	試 験
	ページ	項 目・内 容			66h	
4	P62～71 P78～101	2節：金属の結晶と加工性 1. 金属、合金の結晶と状態変化 3節：鉄鋼材料 1. 鉄鋼の製法				4
5		2. 炭素鋼の性質と分類 3. 純鉄の変態と結晶構造 4. 炭素鋼の組織と熱処理 平衡状態図 炭素鋼の熱処理(焼入れ、焼き戻し、他)				6
6		主要元素、合金元素 5. 炭素鋼の種類と用途・加工性 6. 主要元素、合金鋼				9 前期中間
7		PP 炭素鋼の溶接 ①溶接後熱処理 ②ラメラティアとその対策 ③高温割れとその対策				4
8		PP 溶接記号 ①溶接記号の説明と開先形状 PP 溶接記号				2
9	P12～35	ステンレス鋼 1ステンレス鋼とは 2CrとNiの役割 3ステンレス鋼の分類 4ステンレス鋼の物理的性質と機械的性質				6 前期末
10		5ステンレス鋼の性質 (1)金属学的性質 (2)耐食性 (3)機械的性質 (4)熱処理				6
11	P117～135	6割れ 7マルテンサイト系の溶接性 8溶接材料の選択 9フェライト系の溶接性 10溶接材料の選択				9 後期中間
12		11オーステナイト系の溶接性 12溶接材料の選択 工業基礎学力試験対策				4
1		材料の試験と検査、炭素鋼 材料加工、熱処理 塑性加工、鋳造 切削加工				7
2	P140～146 P206～218	機械工作2 鋼の表面硬化 機械工作1 塑性加工				6 学年末
3		圧延 プレス加工 曲げ加工と残留応力 その他の塑性加工				3

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース			学年・年次
科目名	情報数理	単位数		教科書	工業情報数理	出版社
月	指 導 内 容				指導時数	備 考
	ページ	項 目・内 容				30h
4	4 ～ 282	・リレーシーケンス ・シーケンス制御				4
5	4 ～ 282	・空気圧回路				6
6	4 ～ 282	・PLCラダープログラム				8 中間考査
7	4 ～ 282	・PLCラダープログラム				6
8	4 ～ 282	・PLCラダープログラム				4
9	4 ～ 282	・PLCラダープログラム				2 期末考査
10		後期授業なし				
11		後期授業なし				
12		後期授業なし				
1		後期授業なし				
2		後期授業なし				
3		後期授業なし				

《留意事項》

[課題・提出物等] 演習ノート、課題プリント、ノートなどの提出

[評価方法] 考査評価、提出物評価、学習への取り組み状況などによる総合評価

2025 年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科(総合科)		コース			学年・年次 1年
科目名	電気回路		単位数	教科書	電気回路(上)	出版社 コロナ社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容		h		
4	2 2	電気基礎に必要な数学 計算機の使い方と計算練習 電流と電圧 電流、電圧、抵抗			3	
5	7 13 19 23	オームの法則 導体の抵抗 導体、半導体、不導体 抵抗器・導電率 導体の抵抗温度係数 コンデンサの種類と用途 自己インダクタンス			6	
6	32 48 49	抵抗の接続 直流電圧計の直列抵抗器 直流電流計の分流器			6	前期中間試験
7	52 56	プリッジ回路 キルヒhoffの法則			7	
8	62	電流の作用			2	
9	63 64 66 67	電力・電力量 ジュールの法則 許容電流 電気分解			3	前期末試験
10	70 71 75 82 85	電池の内部抵抗 電池の種類と使い方 熱と起電力 静電力 静電気にに関するクーロンの法則			8	
11	88 92 101 104 107	静電力と電界の強さ 電束と電束密度 コンデンサの静電容量 コンデンサの接続 コンデンサに貯えられるエネルギー			4	
12	110 118 123 127 129	絶縁破壊 磁石と磁気力 磁束と磁束密度 アンペアの右ねじの法則 ビオ・サバールの法則			5	
1	137 140 143 145 147	フレミングの左手の法則 平行電流間に働く力 コイルに働くトルク 直流電動機の原理 磁性体、磁化曲線			7	
2	149 155 157 160 162	ヒステリシス、磁気回路 ファラデー、レンツの法則 フレミングの右手の法則 直流発電機の原理 自己インダクタンス			4	
3	165 171 178	相互インダクタンス 変圧器 正弦波交流の基礎			3	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース			学年・年次 2年
科目名	電気回路		単位数	教科書	電気回路(上)	出版社 コロナ社

月	指 導 内 容			指導時数 h	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4	162 165	自己誘電と相互誘導 相互インダクタンス		4		
5	167 169 171	電磁結合 インダクタンスの直列接続 変圧器		3		
6	172 178 180	コイルに蓄えられる電磁エネルギー 正弦波交流の基礎 正弦波交流の取り扱い		3	前期中間試験	
7	182 186	周期と周波数 角周波数による瞬時式の表し方		3		
8						
9	192 195	正弦波交流とベクトル ベクトルの表示方法		4	前期末試験	
10		後期の授業なし				
11						
12						
1						
2						
3						

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	電気科		コース			学年・年次
科目名	電気回路	単位数	2	教科書	電気回路(上)(下)	出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			98h	
4	162 ～ 176	4.6 自己誘導と相互誘導 コイルの自己インダクタンスおよび相互インダクタンス、変圧器の原理について理解させ、活用できるようにする。			7	
5	178 ～ 199	5.1 正弦波交流 さまざまな交流の違いや正弦波交流の各電圧値、各電流値、位相、位相差について理解させ、活用できるようにする 5.2 正弦波交流とベクトル ベクトル図の意味、直交座標表示と極座標表示の違いを理解させ、活用できるようにする			10	
6	200 ～ 222	5.3 交流回路の計算 R、L、Cだけの回路、RLC直列回路、RLC並列回路、共振回路について理解させ、計算できるようにする			12	中間考査
7	同上	同上			11	専門テスト
	223 ～ 234	5.4 交流電力 いろいろな電力の波形とベクトル図の関係について理解させ、活用できるようにする				
8	同上	同上			3	
9	2 ～ 10	6章 記号法による交流回路の計算 複素数を使った表示方法について理解させ、複素数表示や記号法による交流回路の活用ができるようにする 6.1 交流回路の複素数表示 複素数の計算やベクトル表示について理解させ、活用できるようにする			10	期末考査
10	10 ～ 34	6.2 記号法による交流回路の計算 記号法による交流の表示について理解させ、活用できるようにする			11	
11	35 ～ 46	6.3 回路網の計算 キルヒホッフの法則、重ね合わせの理、テブナンの定理について理解させ、活用できるようにする			10	
	48 ～ 63	7章 三相交流 三相交流の発生の原理や考え方、三相交流電力や回転磁界について理解させ、活用できるようにする 7.1 三相交流回路 三相交流の発生の原理、三相交流回路の計算や回路換算について理解させ、活用できるようにする				
12	同上	同上				中間考査
1	64 ～ 70	7.2 三相交流電力 三相交流電力の考え方を理解させ、電力計算と三相交流の電力測定ができるようにする 高等学校工業基礎学力テスト対策 高等学校工業基礎学力テスト(電気)の出題範囲の総復習により理解させ、出題に対する対応力を身に付けさせる。			12	専門テスト
	71 ～ 78	7.3 回転磁界 三相交流および二相交流による回転磁界の発生について理解させ、活用できるようにする				
2	80 ～ 110	8章 各種の波形 非正弦波交流の性質、コンデンサの電荷の充放電と時定数、微分・積分回路の動作原理を理解させ、活用できるようにする 8.1 非正弦波交流 正弦波交流の合成、非正弦波交流の電圧、電流、電力、力率について理解させ、活用できるようにする			7	高等学校 工業基礎 学力テスト
3	同上	同上			5	期末考査

《留意事項》

[課題・提出物等]演習ノート、課題プリント、ノートなどの提出

[評価方法]考査評価、単元試験、提出物評価、学習への取り組み状況などによる総合評価

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	電気科		コース			学年・年次
科目名	電気回路	単位数		教科書	電気回路(下)	出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			72h	
4	79 ～ 93	8章 各種の波形 非正弦波交流の性質、コンデンサの電荷の充放電と時定数、微分・積分回路の動作原理を理解させ、活用できるようにする 8.1 非正弦波交流 正弦波交流の合成、非正弦波交流の電圧、電流、電力、力率について理解させ、活用できるようにする			12	
5	94 ～ 110	8.2 過渡現象 コンデンサの充放電やRL直列回路の過渡現象について理解させ、活用できるようにする 8.3 微分回路と積分回路 微分回路と積分回路の動作原理を理解させ、活用できるようにする			16	
6	111 ～ 134	9章 電気計測 測定量の扱いや各種測定器およびオシロスコープの使い方を理解させ、活用できるようにする。 9.1 測定量の取り扱い 有効数字と測定器の精度や感度について理解させ、活用できるようにする。 9.2 電気計測の基礎 測定方法の違い、基礎量の測定機器の動作について理解させ、活用できるようにする。			16	中間考査 専門テスト
7	135 ～ 152	9.3 回路計 アナログテスタおよびデジタルテスタの使い方について理解させ、活用できるようする。 9.4 オシロスコープ オシロスコープの動作原理と波形観測の手順について理解させ、活用できるようする。			12	
8		1～3年生の総復習			4	
9		1～3年生の総復習			12	期末考査
10		後期授業なし				
11		後期授業なし				
12		後期授業なし				
1		後期授業なし				
2		後期授業なし				
3		後期授業なし				

《留意事項》

[課題・提出物等]演習ノート、課題プリント、ノートなどの提出

[評価方法]考査評価、提出物評価、学習への取り組み状況などによる総合評価

2025 年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	機械科(総合科)	コース				学年・年次	1年
科目名	電気実習	単位数		教科書	実習電気回路(上)	出版社	オーム社
月	指 導 内 容				指導時数		
	ページ	項 目・内 容				h	試 験
4	8	実習授業に対する諸注意と安全教育 基礎的事項 電圧と電流の測定				3 3	
5	14 20	すべり抵抗器の取り扱い オームの法則の実験				3 3	
6	32	抵抗の並列回路計算 直列・並列・直並列回路の抵抗接続の実験				9 3	
7	56 63 48	電圧降下法による抵抗測定 ホイートストンブリッジによる抵抗測定 実回路の抵抗計算 キルヒhoffの法則の実験				1.5 1.5 6 3	
8		実回路の抵抗計算				3	
9		直線半田付け				9	
10		直線半田付け 渦巻半田付け作業				4 12	
11		部品配置図とパターン図				12	
12		テスター製作				12	
1		テスター製作 部品配置図とパターン図				4 8	
2	117	部品配置図とパターン図 オシロスコープの取り扱い				4 8	
3	117	オシロスコープの取り扱い				8	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	電気科		コース	電子		学年・年次	
科目名	電気実習	単位数	2	教科書	実習 電気回路	出版社	
月	指 導 内 容			指導時数 243h	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容					
4		技能検定3級課題訓練 技能検定『電子機器組立て3級』課題について理解させ、合格に必要な技能・知識を習得できるようにする 1.電子機器組立3級課題訓練 ・技能決定『電子機器組立て3級』課題組立てに必要な、電子部品の基礎知識、電子部品の実装・はんだ付け方法について理解させ、合格に必要な基本技能を身に付けるようにする			14		
5		同上			21		
6		同上			24		
7		技能検定 実技試験リハーサル、実技試験、学科試験			30	実技試験 学科試験	
8		半導体の特性測定 半導体の構造や働きについて理解させ、活用できるようにする 1.ダイオードの特性測定 ・ダイオードに関する基本理論、測定回路の配線方法について理解させ、活用できるようにする			11	レポート①	
9		2.トランジスタの特性測定 ・トランジスタに関する基本理論、測定回路の配線方法について理解させ、活用できるようにする			17	レポート②	
10		トランジスタ増幅回路の製作 ・トランジスタ増幅回路の製作方法について理解させ、活用できるようにする 電子回路応用課題製作 ・電子回路を用いた課題製作を通して、電子回路について理解させ、活用できるようにする 1.メロディアラーム製作 ・メロディアラームの製作を通して、電子回路製作の応用力を身に付けさせ、応用できるようにする ・メロディアラームの調整作業を通して、電子回路の動作原理を理解させ、動作不具合時の補修能力を身に付けさせ、応用できるようにする			28	レポート③	
11		2.デジタル時計製作 ・デジタル時計の製作を通して、電子回路製作の応用力を身に付けさせ、応用できるようにする			28	感想文①	
12		交流回路、電子回路応用課題の特性測定 ・交流回路の基礎知識を応用した各種回路の理論と各種測定器を使用した測定方法を理解させ、活用できるようにする			11	レポート④	
1		交流回路、電子回路応用課題の特性測定 同上 技能競技大会事前訓練 技能競技大会に向けた事前訓練を通して、品質の高い電子回路基板の製作ができるようにする			28	レポート⑤	
2		技能競技大会 技能検定『電子機器組立て3級』課題を用いた技能競技大会により、これまで身に付けた技能力の確認と、今後の技能習得に向けた動機付ができるようにする 第二種電気工事士実技試験体験 ・第二種電気工事士実技試験体験を通して、電工作業に必要な基本作業ができるようにする			17	技能競技 大会	

3		第二種電気工事士実技試験体験 同上	14	感想文②	
---	--	----------------------	----	------	--

《留意事項》

[課題・提出物等] 実習レポート、実習日誌、実習製作課題、技能検定リハーサル課題

[学習状況の評定方法] 実習課題評価、提出物評価、実習への取り組み評価などの総合的に評価する

2024年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校						
学 科	電気科		コース	制御		学年・年次	
科目名	電気実習	単位数	2	教科書	シーケンス制御作業 1~3級	出版社	
月	指 導 内 容			指導時数	試 験		
	ページ	項 目・内 容			215h		
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10		・技能検定『シーケンス制御3級』課題に必要な、シーケンスの基礎知識、ラダープログラム作成時のアルゴリズムの考え方について理解させ、合格に必要な基本技能を身に付けさせる。			25		
11		同上			28		
12		・技能検定『シーケンス制御2級』課題に必要な、シーケンスの基礎知識、ラダープログラム作成時のアルゴリズムの考え方について理解させ、基本技能を身に付けさせる。			14		
1		同上			28	技能検定3級 シーケンス制御 試験	
2		同上			17	技能競技大会	
3		・技能検定『シーケンス制御1級』課題に必要な、シーケンスの基礎知識、ラダープログラム作成時のアルゴリズムの考え方について理解させ、基本技能を身に付けさせる。			11		

《留意事項》

[課題・提出物等] 実習レポート、実習日誌、実習製作課題、技能検定リハーサル課題

[学習状況の評定方法] 実習課題評価、提出物評価、実習への取り組み評価などの総合的に評価する

1

備 考

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日専校							
学 科	電気実習		コース	【電子コース】【制御コース】		学年・年次		
科目名			単位数	教科書				
月			指 導 内 容			指導時数		
			項 目・内 容			h		
4	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得 【制御コース】 1. 電気図面 2. 空気圧装置組み立て 3. ラダープログラム作成 4. FEST 構成部品解体組立 配線 5. 試運転			25				
5	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得 【制御コース】 1. 機械保全（電気、機械） 2. 空気圧装置組み立て 3. SFCプログラム作成 4. FEST 若年者課題製作 5. 試運転			44				
6	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得 【制御コース】 1. 機械保全（電気、機械） 2. 空気圧装置組み立て 3. SFCプログラム作成 4. FEST 若年者課題製作 5. 試運転			44				
7	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得 【制御コース】 1. FEST 若年者課題製作 2. SFCプログラム作成 3. タッチパネル操作画面作成 4. ロボットプログラム 5. 試運転			44				
8	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得 【制御コース】 1. FEST 若年者課題製作 2. SFCプログラム作成 3. タッチパネル操作画面作成 4. ロボットプログラム 5. 試運転			0				
9	【電子コース】 ・国家検定「2級電子機器組立て」合格に向けた技能習得、および受験 【制御コース】 1. FEST 若年者課題製作 2. SFCプログラム作成 3. タッチパネル操作画面作成 4. ロボットプログラム 5. 試運転			33				
10								
11								
12								
1								
2								
3								

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日専校					
学 科	電気科		コース			学年・年次
科目名	電子回路		単位数		教科書	電子回路 出版社
					実教出版	
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			h	
4	10	1章 電子回路素子 1 電子回路素子 1. 半導体 2. ダイオード			9	
5	34	1章 電子回路素子 1 電子回路素子 3. トランジスタ 4. FET 5. その他の半導体素子			9	
6	61	2章 増幅回路の基礎 2 増幅回路の基礎 1. 増幅とは 2. トランジスタの増幅回路			9	中間
7	65	2章 増幅回路の基礎 2 増幅回路の基礎 3. トランジスタのバイアス回路 4. トランジスタによる小信号増幅回路			9	
8	125	3章 いろいろな増幅回路 3 いろいろな増幅回路 1. 負帰還増幅回路 2. 差動増幅回路と演算増幅器			3	
9	147	3章 いろいろな増幅回路 3 いろいろな増幅回路 3. 電力増幅回路 4. 高周波増幅回路			9	期末
10	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			8	
11	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			8	中間
12	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			6	
1	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			8	
2	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			6	期末
3	資料	国家検定「2級電子機器組立て」課題に関する電子回路知識習得			4	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	電気科		コース			学年・年次 2
科目名	電子計測制御	単位数		教科書	電子計測制御	出版社 実教出版
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
ページ	項 目・内 容			34h		
4	2章 シーケンス制御 1.シーケンス制御の基礎 2.シーケンス制御に使われる機器 3.シーケンス制御の基本回路 4.プログラマブルロジックコントローラ			6		
5	ラダープログラム基礎 ・電気図面の読み方、書き方 ・実配線について ・ラダープログラム作成 ・試運転、デバック			6		
6	1章 電子計測制御 1.電子計測制御の考え方 2.センサとアクチュエータ			6	中間考查 専門テスト	
7	ラダープログラム応用（自動運転回路） ・ラダープログラム作成 ・試運転、デバック			6		
8	ラダープログラム応用（自動運転回路） ・ラダープログラム作成 ・試運転、デバック			2		
9	ラダープログラム応用（自動運転回路） ・ラダープログラム作成 ・試運転、デバック			8	期末考查	
10	後期授業なし					
11	後期授業なし					
12	後期授業なし					
1	後期授業なし					
2	後期授業なし					
3	後期授業なし					

《留意事項》

[課題・提出物等] 演習ノート、課題プリントなどの提出

[評価方法] 考査評価、提出物評価、学習への取り組み状況などによる総合評価

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校				
学 科	溶接科	コース		学年・年次	3学年
科目名	溶接概論	単位数	教科書 溶接技術の基礎、 JIS半自動溶接 受験の手引、 JISステンレス鋼溶接 受験の手引き ガス溶接・溶断作業の安全	出版社	産報出版 日本溶接協会 日本溶接協会 中央災害防止協会
月	指 導 内 容				指導時数
	ページ	項 目・内 容		h	試 験
4	P12~27	【JISステンレス鋼溶接 受験の手引き】 1. ステンレス鋼の種類と性質 ステンレス鋼の基礎知識 テンレス鋼の詳細			
5	P181~261	【JISステンレス鋼溶接 受験の手引き】 溶接技能者評価試験(JIS検定) 学科・実技受験対策			
6	P233~243	【溶接技術の基礎】 第10章 安全衛生 要点振り返り			
7	P176~187	【JIS半自動溶接 受験の手引】 7. 溶接作業での災害防止			
	P9~191	【ガス溶接・溶断作業の安全】 要点振り返り			
7	P153~169	【JISステンレス鋼溶接 受験の手引】 7. 障害とその防止対策			
	P17~226	【アーク溶接等作業の安全】 要点振り返り			
	P9~243	【グラインダ安全必携】 要点振り返り			
	【日立グループ全社大会 溶接・製缶学科問題 演習】				
8				4	
9		振り返り全般 全社競技会”溶接・製缶”演習問題 安全全般		9	前 期 末 試 験
10		事業所実習			
11					
12					
1					
2					
3					

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校				
学 科	溶接科	コース		学年・年次	2学年
科目名	溶接概論	単位数	教科書 溶接技術の基礎、 JIS半自動溶接 受験の手引、 JISステンレス鋼溶接 受験の手引き ガス溶接・溶断作業の安全	出版社	産報出版 日本溶接協会 日本溶接学会 中央災害防止協会
月	指 導 内 容			指導時数	
	ページ	項 目・内 容			h
4	【アーク溶接等作業の安全】 P15~47 第1編 アーク溶接等に関する知識 P51~86 第2編 アーク溶接装置に関する基礎知識 P88~201 第3編 アーク溶接等の作業の方法に関する知識 P205~265 第4編 関係法令			4	
5	【ガス溶接・溶断作業の安全】 P9~32 第1章 ガス溶接等に用いる可燃性ガス及び酸素の知識 P33~81 第2章 ガス溶接等の装置の構造、取扱いおよび保守・点検 P82~104 第3章 ガス溶接等の作業における危険性 P105~115 第4章 災害事例 【JIS半自動溶接 受験の手引】 P14~34 1. 半自動溶接の一般知識 溶接部の性質(溶接金属の溶融・凝固・冷却) 溶接用語 【溶接技術の基礎】 P11~21 第1章 焊接法とその種類 溶接の利点と欠点 溶接法の分類 被覆アーカ溶接法、半自動アーカ溶接法、TIG溶接、各種溶接法 P121~126 第7章 溶接材料の選び方、使い方 溶接アーカ 陰極点の清掃作用・磁気吹き・ピッチ効果 溶滴移行			6	技能講習のため、講習時間に規定があるため、溶接実習の時間も使い行う。また修
6	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P25~34 1. 半自動溶接の一般知識 溶接用語(アンダーカット、オーバーラップ、止端) 溶接継手の種類 開先の種類と各部の名称 【溶接技術の基礎】 P125~130 第7章 溶接材料の選び方、使い方 アーカ溶接機の機能 アーカ溶接機の構造(交流、直流溶接機) 付属装置(電擊防止装置、遠隔制御装置、高周波発生器)			6	前 期 中 間 試 験
7	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P35~42 1.5. 半自動アーカ溶接 半自動アーカ溶接の原理と種類 シールドガス、溶接ワイヤ 溶滴の移行形態 【溶接技術の基礎】 P131~140 第7章 溶接材料の選び方、使い方 アーカ溶接機の取扱(使用率、周波数、容量、結線、保守) P40~48 第3章 溶接設計 溶接接手の記号 構造詳細			7	
8	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P57~75 2.2. 半自動溶接機の知識 溶接電源の種類と特性 半自動溶接機の主な構成とその働き			2	
9	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P75~76 2.2. 半自動溶接機の知識 溶接機の定格・使用率 P76~83 2.3. 半自動溶接機の取扱い 据付け、機器の保守・管理			5	前 期 駆 末 試
10	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P188~268 溶接技能者評価試験(JIS検定) 学科・実技受験対策 【溶接技術の基礎】 P49~83 第3章 溶接設計 溶接接手の強度 溶着効率と溶接材料使用量(教科書以外より)			6	
11	【JIS半自動溶接 受験の手引】 P107~131 4. 溶接施工 溶接作業前準備 溶接条件 本溶接 溶接結果に及ぼす諸因子の影響			6	後 期 駆 末 試
12	【溶接技術の基礎】 P185~231 第9章 試験と検査 破壊試験と非破壊試験 各種検査方法(外観検査、放射線、超音波、磁粉・浸透探傷試験)			6	
1	【JISステンレス鋼溶接 受験の手引き】 P57~62 2. ステンレス鋼の溶接 ティグ溶接・その他の溶接法 【JIS半自動溶接 受験の手引】 P143~158 5. ティグ溶接と組合せ溶接 ティグ溶接機器 ティグ溶接材料 溶接施工			7	
2	【溶接技術の基礎】 P141~149 第8章 溶接施工管理 溶接施工管理の重要性・準備・要点 加工、組立手順、 溶接順序と溶着法 溶接施工条件			3	後 期 駆 末 試
3	【溶接技術の基礎】 P150~160 第8章 溶接施工管理 裏はつりと裏溶接 溶接前後の熱処理(予熱、パス間温度) 溶接部などの仕上げと矯正			4	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース	溶接		学年・年次 1学年
科目名	溶接実習	単位数		教科書		出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4		安全教育 ティグ溶接機取り扱い アークスタート			3	
5		ティグ溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			9	
6		ティグ溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			12	
7		ティグ溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			6	
8		被覆アーク溶接機取扱い 電流調整 アークスタート			3	
9		被覆アーク溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			9	
10		被覆アーク溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			16	
11		被覆アーク溶接 基礎実習 (ビードオンプレート)			8	
12		半自動アーク溶接機取扱い 電流調整 アークスタート			8	
1		半自動アーク溶接機 基礎実習 (ビードオンプレート)			16	
2		半自動アーク溶接機 基礎実習 (ビードオンプレート)			12	
3		課題作製			4	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース	溶接		学年・年次 2学年
科目名	溶接実習		単位数		教科書	出版社
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4		アーク特別教育 被覆アーク溶接(A-2F) 半自動アーク溶接(SA-2F) グラインダ研削			20	
5		ガス溶接技能講習 被覆アーク溶接(A-2F) 半自動アーク溶接(SA-2F) グラインダ研削			32	
6		被覆アーク溶接(A-2F) 半自動アーク溶接(SA-2F) グラインダ研削 ガス切断(手動、自動)			30	
7		JIS検定実習 (SA-2F,A-2F)			36	
8		JIS検定実習 (SA-2F,A-2F)			20	
9		JIS検定実習 (SA-2F,A-2F)			34	
10		JIS検定実習 (SA-2F,A-2F)			34	
11		ティグ溶接(ビードオンプレート、隅肉、TN-F) プラズマ切断			36	
12		ケガキ 手動ガス切断 半自動アーク溶接(立向すみ肉)			27	
1		ティグ溶接(TN-F) 半自動アーク溶接(SA-2V)			23	
2		JIS検定実習(TN-F) L鋼切り曲げ			18	
3		JIS検定実習(TN-F)			18	

《留意事項》

2025年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日立工業専修学校					
学 科	機械科		コース	溶接		学年・年次 3学年
科目名	溶接実習		単位数	教科書		
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				
4		JIS検定実習 (TN-F)			25	
5		JIS検定実習 (TN-F) 半自動アーク溶接(混合ガス) (圧力容器)			40	
6		応用実習 (被覆、半自動、ティグ、ガス切断) 各事業所に合った実習 (MAG溶接・厚板・薄板) (TIG溶接・薄板)			44	
7		応用実習 (被覆、半自動、ティグ、ガス切断) 各事業所に合った実習 (MAG溶接・厚板・薄板) (TIG溶接・薄板)			44	
8		応用実習 (被覆、半自動、ティグ、ガス切断) 各事業所に合った実習 (MAG溶接・厚板・薄板) (TIG溶接・薄板)			15	
9		応用実習 (被覆、半自動、ティグ、ガス切断) 各事業所に合った実習 (MAG溶接・厚板・薄板) (TIG溶接・薄板)			22	
10		事業所実習				
11		事業所実習				
12		事業所実習				
1		事業所実習				
2		事業所実習				
3		事業所実習				

《留意事項》
